

安全データシート

1,1',2,2',3,3',4,4',5,5'-デカクロロ-1,1'-ビ[シクロペンタ-2,4-ジエン]

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名 : 1,1',2,2',3,3',4,4',5,5'-デカクロロ-1,1'-ビ[シクロペンタ-2,4-ジエン]
CB番号 : CB8760739
CAS : 2227-17-0
EINECS番号 : 218-763-5

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 殺ダニ剤
推奨されない用途 : なし

会社ID

会社名 : Chemicalbook
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話 : 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

平成24年。政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7版)を使用 GHS改訂4版を使用

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分2B

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 分類実施中

水生環境有害性(長期間) 分類実施中

オゾン層への有害性 分類実施中

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS07	GHS09

注意喚起語

警告

危険有害性情報

H302 飲み込むと有害。

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

安全対策

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P273 環境への放出を避けること。

応急措置

P301 + P312 + P330 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。

P391 漏出物を回収すること。

廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

2.3 他の危険有害性

なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式 等)	: C ₁₀ Cl ₁₀
分子量	: 474.64 g/mol
CAS番号	: 2227-17-0
EC番号	: 218-763-5
化審法官報公示番号	: -
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

医師に相談する。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸い込んだ場合、新鮮な空気のある場所に移す。呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。医師に相談する。

皮膚に付着した場合

石けんと多量の水で洗い流す。医師に相談する。

眼に入った場合

予防措置として、水で眼を洗浄する。

飲み込んだ場合

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。口を水ですすぐ。医師に相談する。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

塩化水素ガス

5.3 消防士へのアドバイス

消火活動時には必要に応じて自給式呼吸装置を装着する。

5.4 詳細情報

データなし

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

保護具を使用する。粉じんの発生を避ける。蒸気、ミスト、またはガスの呼吸を避ける。十分な換気を確保する。粉じんを吸い込まないよう留意。個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。掃いてシャベルですくいとる。廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

皮膚や眼への接触を避けること。粉じんやエアゾルを発生させない。

火災及び爆発の予防

粉じんが発生する場所では、換気を適切に行う。

衛生対策

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管クラス

保管クラス(ドイツ)(TRGS 510): 11: 可燃性固体

保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。

保護具

眼 / 顔面の保護

EN166に適合するサイドシールド付き保護眼鏡 NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。

皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

身体の保護

化学防護服、特定の作業場に存在する危険物質の濃度および量に応じて、保護装置のタイプを選択しなければならない。

呼吸用保護具

不快物質への暴露には、P95型(US)又はP1型(EU EN 143)呼吸用粒子保護具を使用する。より高度な保護には、OV/AG/P99型(US)又はABEK-P2型(EU EN 143)呼吸用保護具カートリッジを使用する。NIOSH(US)またはCEN(EU)などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた呼吸用保護具および部品を使用する。

環境暴露の制御

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	固体(結晶)(Ullmanns(E) (6th, 2003))
色	黄褐色(Ullmanns(E) (6th, 2003))
臭い	かすかなタマネギまたはニンニク臭(HSDB (2005))
臭いのしきい(閾)値	データなし。
pH	データなし。
121.5-122°C(Merck (14th, 2006))	
250°C (分解)(HSDB (2005))	
187.8°C(OC)(Gangolli (2nd, 1999))	
データなし。	
データなし。	
データなし。	
0.00001 kPa(25°C)(Ullmanns(E) (6th, 2003))	
データなし。	
1.923g/cm ³ (25°C)(HSDB (2005))	
水:0.025 mg/L (20°C)(HSDB (2005))	
エタノール、アセトン、脂肪族炭化水素に微溶。芳香族炭化水素に可溶。(Ullmanns(E) (6th, 2003))	
3.23 (25°C)(HSDB (2005))	
データなし。	
250°C(HSDB (2005))	
データなし。	
融点・凝固点	
121.5-122°C(Merck (14th, 2006))	
沸点、初留点及び沸騰範囲	
250°C (分解)(HSDB (2005))	
引火点	
187.8°C(OC)(Gangolli (2nd, 1999))	
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	
データなし。	
燃焼性(固体、気体)	
データなし。	
燃焼又は爆発範囲	
データなし。	
蒸気圧	
0.00001 kPa(25°C)(Ullmanns(E) (6th, 2003))	

蒸気密度

データなし。

密度

1.923g/cm³ (25℃)(HSDB (2005))

溶解度

水:0.025 mg/L (20℃)(HSDB (2005))

エタノール、アセトン、脂肪族炭化水素に微溶。芳香族炭化水素に可溶。(Ullmanns(E) (6th, 2003))

n-オクタノール/水分配係数

3.23 (25℃)(HSDB (2005))

自然発火温度

データなし。

分解温度

250℃(HSDB (2005))

粘度(粘性率)

データなし。

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

データなし

10.2 化学的安定性

推奨保管条件下では安定。

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

データなし

10.5 混触危険物質

強酸化剤

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットのLD50値は3160 mg/kg (HSDB (2003))、>20000 mg/kg(雄)および>30000 mg/kg(雌)(農薬安全情報 日本農薬学会誌第15巻第3号(1990))に基づき、区分外とした。GHS分類:区分外

経皮

ウサギのLD50値は>3160 mg/kg (HSDB (2005)) およびラットのLD50値は>5000 mg/kg(農薬安全情報 日本農薬学会誌第15巻第3号(1990))に基づき、区分外とした。GHS分類:区分外

吸入:ガス

GHSの定義における固体である。GHS分類:分類対象外

吸入:蒸気

データなし。GHS分類:分類できない

吸入:粉じん及びミスト

データ不足。なお、4時間ばく露によるラットのLCLoは>0.425 mg/L(RTECS (2005))と報告されているが、区分を特定できないので分類できない。また、試験濃度が飽和蒸気圧濃度(0.0019 mg/L)を超えているので粉塵による試験とみなした。GHS分類:分類できない

皮膚腐食性及び刺激性

ウサギの皮膚に50%水和剤0.5 gを24時間貼付した試験で、貼付後5日まで軽度の紅斑と浮腫が認められたが貼付後6日には消失し、軽度な刺激性との評価結果(農薬安全情報 日本農薬学会誌第15巻第3号(1990))に基づき、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分3に相当)とした。なお、ヒトで本物質は皮膚刺激物ではない(HSDB (2005))との記載もある。GHS分類:区分外

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギの眼に3 mgを適用した試験で軽度の刺激性(slight irritation)が観察されたが、6日目迄に回復した(HSDB (2005))との報告、さらにウサギの眼に50%水和剤100 mgを適用した試験で、適用1時間に軽度な結膜の刺激性、24時間後には結膜に加えて角膜および虹彩にも軽度な刺激性変化がみられ、回復に約2週間を要したものの軽度な刺激性と評価された結果に基づき区分2Bとした。なお、ヒトで本物質は軽度の眼刺激物である(HSDB (2005))との記載もある。GHS分類:区分2B

呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない

皮膚感作性

モルモットの皮膚感作性試験で50%水和剤に皮膚感作性なし(農薬安全情報 日本農薬学会誌第15巻第3号(1990))と報告されているが、試験方法および試験結果(陽性率など)の詳細も不明のため「分類できない」とした。GHS分類:分類できない

生殖細胞変異原性

マウスの経口投与による骨髄細胞を用いた染色体異常試験(体細胞in vivo 変異原性試験)で陰性(農薬安全情報 日本農薬学会誌第15巻第3号(1990))の結果に基づき区分外とした。なお、in vitro試験では、エームス試験のTA100株で陽性(HSDB(2005))、およびTA100株のみ擬陽性(統計学的有意差はないが軽度な増加)でその他の株では陰性(農薬安全情報 日本農薬学会誌第15巻第3号(1990))の結果が報告されている。GHS分類:区分外

発がん性

データなし。GHS分類:分類できない

生殖毒性

妊娠ラットおよび妊娠ウサギを用いそれぞれ器官形成期に経口投与した発生毒性試験において、両動物種とも高用量(ラット50 mg/kg、ウサギ

40 mg/kg)で母動物に軽度な体重増加抑制がみられたが、着床数、胚死亡率、生存胎仔数などの発生指標、奇形発現率、および胎仔の発育に変化は認められなかった(農薬安全情報 日本農薬学会誌第15巻第3号(1990))。この結果から、仔の発生に対する悪影響は見出されなかったが、親動物の性機能・生殖能に対しては、交配前からのばく露のデータがないため判断できず、データ不足のため「分類できない」とした。GHS分類:分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

データなし。GHS分類:分類できない

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

マウスに3ヵ月間混餌投与による亜急性毒性試験(0, 20, 80, 320, 1280 ppm)において、最大無作用量は320 ppm (雄:38.3 mg/kg/day, 雌:44.8 mg/kg/day)と判断され、最高用量1280 ppm (雄: 153.2 mg/kg/day, 雌: 179.2 mg/kg/day)では雌雄各4匹が投与期間中に死亡し、病理組織学的検査で死亡例に肝の脂肪化、肝細胞の大小不同、クッパー細胞腫大等に加え、同群の雄ではALPおよびGPT活性の増加が認められたと報告されている(農薬安全情報 日本農薬学会誌第15巻第3号第3号(1990))。この結果から肝臓への影響が示唆されるが用量(1280 ppm)がガイダンス値の範囲を超えており、ガイダンス値上限付近では影響が不明なため「分類できない」とした。GHS分類:分類できない

吸引性呼吸器有害性

データなし。GHS分類:分類できない

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

LC50 - *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス) - 0.05 mg/l - 96 h

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性

EC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - 1.2 mg/l - 48 h

12.2 残留性・分解性

データなし

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壤中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

12.6 内分泌かく乱性

データなし

12.7 他の有害影響

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

データなし

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

可燃性溶剤に溶解または混合し、アフターバーナーとスクラバーが備えられた化学焼却炉で焼却する。免許を有する廃棄物処理業者に、余剰物で再使用不可の溶液として処理を依頼する。汚染容器及び包装製品入り容器と同様に処分する。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：3077 IMDG（海上規制）：3077 IATA-DGR（航空規制）：3077

14.2 国連輸送名

(Dienochlor)

IATA-DGR（航空規制）：Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s. (Dienochlor)

ADR/RID（陸上規制）：ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S. (ジエノクロル)

IMDG（海上規制）：ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：9 IMDG（海上規制）：9 IATA-DGR（航空規制）：9

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：III IMDG（海上規制）：III IATA-DGR（航空規制）：III

14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：該当
該当

14.6 特別の安全対策

14.7 混触危険物質

強酸化剤

詳細情報

危険物（液体 >5Lまたは固体 >5kg）を有する内装容器を含む、単一容器および複合容器に必要とされる

EHSマーク(ADR 2.2.9.1.10, IMDGコード 2.10.3)5 kg / L 以下で、危険物クラス 9 に該当しないパッケージ

15. 適用法令

該当法令なし。

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
<http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
pageID=0&request_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。